

2020年  
No.90  
4月1日発行

## 国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



- こだいら市民駅伝大会 ランナーインタビュー
- 世界の料理講座を支えるボランティア
- どう向き合う？外国ルーツの子ども達 ほか

## 第6回小平市日本語発表会 2019年12月8日(日) 小平市福祉会館

市内在住の外国の方が、日ごろの日本語学習の成果として、日本で感じたことや体験したことなどを発表しました。発表者9名の出身は、ガーナ、ベトナム、中国、台湾、インドネシアです。小学生、中学生、留学生、仕事で来日中、家庭の主婦などバラエティーに富んでいます。

有名観光地を写真で紹介しながら、「是非、私の国にも来て下さい」、とベトナム観光のPRがありました。その美しい景観に惹かれて、行ってみたい気分させられます。冬は零下30℃と厳寒の黒竜江省出身の女性からは、食文化の紹介でした。満漢全席という宴会用料理は、中国北部・南部の料理計108品がテーブルに盛られます。日本円で300万円かかることも珍しくなく、中国食文化の偉大さと奥深さを改めて感じさせられました。

中国出身の小学4年生の女子は、来日以来僅か8か月にもかかわらず流暢な日本語です。当初は日本語が分からず学校へ行くのも怖かったとのこと。今は“マジック係”に入り友達も出来て、新しいネタを研究する

のが楽しみだそうです。サプライズでトランプマジックの実演があり、その腕前に皆度肝を抜かれ、会場は和やかな雰囲気は一変しました。

台湾出身の男子留学生は、日本の観光業について、2020東京大会を契機に都市部と地方との共生を考えなければ、地方は益々ゴーストタウン化する、との提言をされました。東京中心の現状を、地方旅行で実感したそうです。

今回の発表会を振り返ると、在日期间が短いにもかかわらず、皆さん日本語が大変にお上手だと感じました。学校では日本語、家庭では母語と使い分けるなど、日本語学習に対する熱意と努力に、本当に感嘆させられます。

全ての発表終了後にKIFA理事長から講評がありました。日本人との友人関係の多さが日本語の上達につながり、コミュニケーションも上手くいく、との感想が述べられました。ますます在留外国人が増えるなか、我々もその友人の一人になるよう、心を動かされた日本語発表会でした。



# こだいら市民駅伝大会 ランナーインタビュー

2月2日(日)



第40回こだいら市民駅伝大会が開催されました。KIFAは昨年同様、男女4人ずつの計2グループの参加となり、ひとり3.1kmを走りました。KIFA交流イベントのボランティアをしている藤吉さん(集合写真の右上)が、監督として3年連続でKIFAチームの指導や調整にあたっています。当日も、たすきの渡し方を入念に確認したり、皆を誘い合ってストレッチをしていました。

駅伝チームのメンバーは、普段から運動をしている人から、ほぼぶっつけ本番の人まで様々です。今年では東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるということもあり、ランナーの皆さんに話を伺ってみました。



飯島佐和子さん  
(日本/アメリカ)

父親がアメリカ人です。現在は、一橋大学のボート部に所属して、練習拠点の戸田市に下宿しています。今日も朝練をして来ました。普段から鍛えています。東京オリンピックでは、ビーチバレーとボートのチケットを購入しました。球技も好きで、小学生から高校まではサッカーをやっていました。

玉川上水沿いを走って練習しました。ジョギング以外ではヨガをやっています。東京オリンピックはチケットが取れなかったのですが、ダイビング、体操、バレーボールなどを観たいと思います。トルコでは日本と開催地を争っただけにオリンピックへの関心は高いです。武蔵野美術大学の大学院で、基礎デザインを学んでいます。卒業後は日本で働くことを希望しています。

メイさん  
(トルコ)



故郷ペルーでは、サッカーやバレーボールが人気です。今回の駅伝は、あまり練習ができませんでした。子ども達は学校で東京オリンピックを観戦しに行くかもしれません。私もスペイン語が話せるのでボランティアに登録しています。特に、子どもが習っている柔道が観たいです。



高山ちえみさん  
(ペルー)

陳昆典さん  
(台湾)



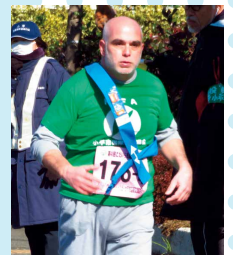
一橋大学の大学院・法学研究科に在籍中で、専攻しているのは知的財産法です。駅伝に参加するにあたり1回練習しましたが、普段は筋トレやジョギングなどを行っています。正直、東京オリンピックにはあまり関心がなく、スポーツは、テレビで観戦するくらいです。台湾では、野球やバスケットが人気です。

マークさん  
(アメリカ)



三鷹の幼稚園で、3~4歳の子どもに英語を教えています。学生の時にバレーボールやサッカーをしていました。今はボルダリング(ロッククライミング)をしています。東京オリンピックでは、柔道、ボルダリング、マラソンが観たいです。出身国のアメリカでは、野球や体操、水泳が強くて、メダルを取ると大金が得られます。

KIFAや大学などでイタリア語を教えています。高校の時に自転車をやっていたこともあり、小金井公園で自転車やジョギングをしています。イタリアは昔、フェンシングが強かったのですが、日本のテレビはイタリアのことは余り放映しないので、最近のオリンピックはよく分かりません。東京オリンピックで興味があるのは、短距離やマラソンで、休みの日にテレビでやっていたら観るでしょう。



マリオさん  
(イタリア)

会社で働いていて、KIFAの交流イベントのボランティアもしています。週1度ジムに通っている程度で、スポーツはしていませんが、駅伝に出るのは去年に続き2度目です。日本で応援しているオリンピック種目は、卓球やバドミントン、野球、そして中学の時にやっていたサッカーです。卓球の平野美宇選手やバドミントンの桃田賢斗選手に頑張ってもらいたいです。マラソンや400メートルリレーも観たいです。



千頭裕毅さん  
(日本)

高田依里さん  
(日本)



4年ほど前に友人に誘われマラソンを始めました。シューズさえあれば旅行中もできること、色んな景色を見ながら走るのが楽しくて、先日はハーフマラソンにも出ました。大会は参加費5000円くらいかかることもありますが、目標ができるとやる気になります。正月休みは毎日5キロ走りましたが、仕事のある日は夜走っています。東京オリンピックではシンクロ(アーティスティックスイミング)やマラソンを観たいです。

KIFAチームは、いずれも全員にたすきをつないで完走することができました。当日は、老若男女、中にはかぶり物などを着用してひととき目立つランナーもいましたが、国際色豊かなKIFAチームもまた、駅伝大会を彩っていました。

## 世界の料理講座を支えるボランティア

2月13日(木) 学園西町地域センター調理室

KIFAで人気の「世界の料理講座」は、ボランティアによる準備あつての講座です。事前に講師と一緒に料理を作って、レシピの見直しや当日スムーズに作業ができるようにリハーサルをしています。2週間後に開催予定だった\*「フィリピン料理」の講師はフィリピン出身のリサさんです。リサさんは日本に来て30年、小平では7年暮らしています。お子さんが4人いて、長女のアカネさんがお手伝いに来てくれました。今回のメニューはソーパス(マカロニと鶏肉と野菜のミルク煮)、ルンピアン・シャンハイ(合い挽き肉と野菜の春巻き)、フルーツサラダ(フルーツとタピオカと練乳と生クリームのみックス)の3品です。



早速、料理のレクチャーが始まりました。当番のボランティアが買い出した材料を、リサさんが切っているのを見ている人、メモに取る人、これから使用するものの準備をする人などに分かれます。ボランティアは当日、各テーブルのサポートをするので、本番で分かりやすく教えるため

には、一人一人が調理の流れや材料の分量などをきちんと把握しなければなりません。ベテラン主婦の皆さんが集まっているだけあって、どんどん作業が進んでいきます。



「にんにくは沢山入れたほうが美味しいから、レシピでは3片だったものを6片に変更しましょう。」というように、調理しながらレシピを見直していきます。ナンプラーを入れる時には「〇〇店は高いので〇〇スーパーの方がいいですよ。」などどうれしいお得な情報も教えてもらいました。ナンプラーはフィリピンでは欠かせない調味料だそうです。「フィリピンは暑い国で塩気の強いものが多いのですが、今回は塩を減らしましょう。」とその場で分量を調整しメモを取っていきます。当日テーブルに準備する材料をどれくらいの量にするか確認していきます。

試食中は分量の最終チェックをしたり、リサさんが「当日は家で栽培しているミントを持ってくるのでデザートに乗せましょう。」などとさらに会話がはずみます。リサさんからフィリピンの楽しい暮らしぶりをいろいろ聞かせてもらい、あっという間の4時間でした。

\*新型コロナウイルスに配慮し、中止となりました。改めて開催予定です。

## 多摩六都多文化共生サーキット in 清瀬 「どう向き合う？ 外国ルーツの子ども達」

2月10日(月) 清瀬市消費生活センター

昨今、さまざまな背景を持つ外国ルーツの子どもが増えています。小中学校に日本語がわからない子どもが転入学してきた時、先生はどのようにサポートすればいいか、また地域の日本語教室でできることは何かなど、情報共有し話し合いました。

前半は、子ども日本語教室を運営する西東京市多文化共生センターの山辺真理子さんから、行政と学校との連携について話があり、東久留米国際友好クラブの佐光攝子さんと田淵陽子さんから、小学校での現状と対応について話がありました。言葉が通じないだけでなく、日本人にとっては当たり前なことでも、突然日本に来た外国の子どもにとっては当たり前でないことが、学校には沢山あります。例えば集団行動は外国人にとって大変難しく、給食は宗教上食べられないものがある、家族のイベントを優先させて学校を休むこともある、など。郷に入れば郷に従えといえども、それでは外国人も受け入れ側もうまくいかなくなるので、互いの緩やかな着地点を目指すべきとのことでした。

また、受け入れ時の工夫についても、予めクラス一同で外国人の国について調べておいたり、イラスト入りコミュニケーションボードを使ったりなどの例も紹介されました。周

りの大人が、諦めずさまざまな方法でサポートすることが大切とのことでした。

後半は、三鷹市にあるピナットの出口雅子さんから、外国ルーツの子ども言語習得について話がありました。親が外国人の場合、親は何語で子育てすべきでしょうか。日本語…と思いがちですが、実は親の母語で育てること、特に就学前から母語でたくさん話しかけることが大切だそうです。母語で言語習得の基礎・土台を作ることが将来のためには欠かせず、この土台ができていないと、生きていく上で起こるさまざまな感情(悲しい・悔しいなど)に向き合っ乗り越えていくことができなくなるという言葉が、大変印象に残りました。

外国ルーツの子ども達は、将来の日本を支えてくれる子ども達でもあります。その子ども達をどう育てていくかは、私達受け入れる日本側の大人にかかっています。皆が他人事にせず考えていけたら変わるのではと思った2時間でした。



国際化市民フォーラム in Tokyo  
B分科会「在住外国人の医療・保健について」  
2月8日(土) なかのZERO

医療通訳、診断現場、行政の立場の専門家による公開討論会が、多くの出席者のもとに開かれました。

東京都の人口1,395万人に対し在住外国人の割合は現在4%、国の外国人材受け入れ拡大政策事業によって、2040年には都民の10人に一人が外国人になると見込まれています。

医療現場では医療従事者と患者や家族の、異なる言語間の橋渡しをする「医療通訳」が必要とされています。多言語が要求される中で、医療通訳の研修、育成などのシステム不足、また医療現場の受入など、今後の課題が述べられました。

『多文化クリニック』として外国人の心の医療と向き合う現



令和2年度は  
次のような事業を行います

I 国際理解及び国際親善の普及事業

国際子どもクラブ、日本語会話教室、英会話教室、外国語会話教室、日本語発表会、子ども日本語・学習支援、多文化理解講座 in English

II 地域における友好交流事業

国際交流フェスティバル、ホームビジット、スポーツ交流の促進、交流イベント

III 地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業

世界の料理紹介、外国人のための日本文化体験教室

IV 国際交流情報の収集及び地域への提供事業

機関紙(年3回)・情報紙(年10回)の発行、生活情報提供(各種説明会)、ISDAKプロジェクト、翻訳・通訳事業、災害時外国人支援センター運営

V その他協会目的達成事業

ボランティア活動推進、市民まつりパレード参加、新年交流会、連携事業

編集後記

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本の選手も様々な競技で活躍が期待されており、日頃の成果が発揮できるよう願ってやみません。一方で、今年の暖冬を思うと夏の暑さへの心配と共に、新型コロナウイルスの行方が気になります。こればかりは収束に向かうよう祈るほかありません。ウィルスに負けない健康管理も大切ですね。(Y.Y)

場の医師からは、外国人が抱える「こころのストレス」の実態が報告されました。異文化、異言語の中での対人コミュニケーションにおける葛藤や混乱、異なる習慣や生活様式から来る不適応などが、そのストレスの主原因となっています。

東京都は在住外国人の医療・保健対策として、多方面からの意見を集約しながら、都としての仕組みを作っていくとの報告がありました。来年度はその体制作りへの予算化を図り、キックオフの年とすることが宣言されました。

これからの行事予定

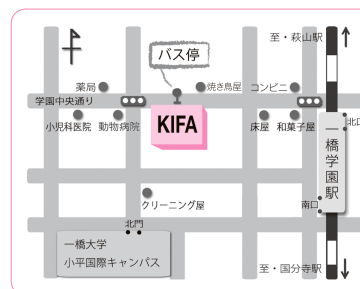
- ◎日本語会話教室 通年 月・金・土曜日
- ◎こども日本語・学習支援教室 通年 水曜日
- ◎英会話教室 前期(4~7月)・後期(9~翌3月)
- ◎中国語講座(入門) 5月~1月 金曜日
- ◎イタリア語講座(入門) 5月~3月 月曜日
- ◎国際子どもクラブ 5月~7月 土曜日

※詳しくは、KIFAミニレターまたはHPをご覧ください。

令和2年度収支予算

(令和2年4月1日~令和3年3月31日まで)

● 収入の部		(単位:円)
科目	予算額	
賛助会費収入	1,245,000	
補助金収入(市補助金ほか)	14,483,000	
寄付金収入	20,000	
積立金繰入	300,000	
事業収入	7,355,000	
雑収入(預金利子等)	1,000	
前期繰越金	1,951,000	
収入合計	25,355,000	
● 支出の部		(単位:円)
科目	予算額	
事業費	10,404,000	
国際理解及び国際親善の普及事業	6,646,000	
地域における友好交流事業	996,000	
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	174,000	
国際交流情報の収集及び地域への情報提供事業	2,101,000	
その他協会目的達成事業	487,000	
管理費(管理運営費)	14,850,000	
積立金	1,000	
予備費	100,000	
支出合計	25,355,000	



発行日 2020年4月1日  
発行 小平市国際交流協会  
編集 機関紙グループ

〒187-0045  
小平市学園西町2-12-22  
学園西町地域センター 3階  
TEL. 042-342-4488  
FAX. 042-347-3003